

stage



ひらまつ祭り

「ひらまつ祭りをやる！」いつぞやこんな話を安藤さん（今回の作・演出）から聞いた。「ひらまの重くなった腰を（体を？）持ち上げなくては!!」とも言っていた。再びひらまを舞台上上げると安藤さんの意思は固かったようだ。それが形になってしまったのだから恐ろしい…。

平成15年12月29日、スペースベンにて公演した『しあわせであるように』～成年の集い2003～がそれである。

本番当日ベンスタに足を踏み入れてステージセットが目に入る。古びたアパートの一室（六畳一間？）、ポロイカーベットの上面にポロイソファがあるし、テーブルがあるし、テレビがありビデオデッキがあるし、エロビが並んだ

演劇空間スペースベン

冬の劇評2本立て

本欄があるし、服は脱ぎ散らかし怪しい雑誌は乱雑に置かれていて。「男の部屋だなあ、それも一人暮らしの」って感じの舞台セット。あら？あら？安藤さんどうしちやったの？遺影になっちゃってるよ、死んじゃったの？ それもよく見るとグラサンかけた本人が入ってるし…。

そこで繰り返られる様々な人間模様、壮大な物語がこれから始まるはずがない。その部屋はひらまさんの部屋らしく、「安藤さんの命日だ」って、続々と『成年の集い』のみなさんがやって来て昔話に花が咲き、最近はどうしたとかこうしたとか殆ど私生活（マジ）のお話。まるで同窓会のように…。

そう、これは集いなのだ。それも14、5年ぶりの成年達の舞台を使つての集い。タイトルにもある『しあわせであるように』。みんな幸せに生きてるようで、本当はやりたい事やって太く短く生きて死んでいった安藤さん（物語上）が一番幸せだったんじゃないか？ そんな言葉が印象に残る。さて、ひらまさんも復活した？事だし、2003って事は2004とか2005もあるんだよね、安藤さん！

ベンスタ専属アクトー 紫葉ミ



34歳はオヤジですか？ そくだよね

「俺も年をとったんだな」と今更ながら思った。恥ずかしいのである。背中あたりがムズムズしてくる。身の置き場がなくなってくる…。若い、若すぎる。自分と15歳も違う役者達がストリートに、あまりにもストリートに観客に「愛」をぶつけにくる。「愛？恋？口で言う愛など俺にはわからない」と斜に構え、もうすっかりひねたオヤジになってしまった私は「わかった、わかったからもう勘弁してくれ」と怯んでしまう。スペースベンで紫葉実作・演出の『わたしにシングルベル・あなたにクルシミマス』を観ながら心の

中で白旗をあげてしまった。紫葉実の作品はこれまでも何度か観たり参加してきた。その中で、今回の『わたしにシングルベル・あなたにクルシミマス』は「紫葉ワールド」の完成度が一番高かった様に感じる。出演陣の楽しさも充分に伝わってきたし、観客の反応も良かった。テーマや物語に関して私には特筆する事はないのだが、舞台の作り方が面白かった。舞台面の両サイドに客席をつくり、前も後ろもない舞台を使っている非常に興味深く観させてもらった。これまで自分でも小さな舞台の前と左右に客席をつくった事はあったが、この舞台のカチは私は始めて観た。応用のききそうな面白いカタチだ。舞台に係わっている、思っている事が思っている様に表現でき、狙った通りに観てもらえた時と言うのは一番嬉しい瞬間だ

と思う。終演後の興奮冷めやらぬ会場で、出演者と観客の笑顔を観ながら、この中から様々なカタチで「舞台に係わってみよう」或いは「もう一度やろう」と思う人が一人でも出てきてくれればいいと感じた。なんだかんた言っても、若い人達のエネルギーは世の中に必要だ。更に贅沢を言えば、私の様なオヤジにも楽しめる舞台を創ってもらえればもう思い残すことはない。イヤイヤ、若者のエネルギーを身近に感じて私も奮起します。これから『紫葉ミぶろでゆるす』がどうなっていくのか私には分からないが、「もしかすると10年後に紫葉実作は八戸の演劇界のアントニオ猪木になっているのかもしれないなあ」とほんやり考えつつ会場を後にした。

創造集団パノラマ屋 お頭
安達良春

2月の **F**riday **A**musement **N**egative **S**hop

■2月6日 (第522回) 未定
 ■2月13日 (第523回) シバミからおけBOX化計画
 ■2月20日 (第524回) 未定
 ■2月27日 (第525回) 未定

○FANS番外篇
 2月1日 (日) 蛭子ライブ公演
 19:00開演 (開場18:30)
 入場料: 1,000円

※全て午後7時30分～、料金500円
 チケットはスペースベンにて販売

Space BEN

駐車場はございませんので、車でのご来場はご遠慮下さい。
 (近くに西町駐車場有り)

☎ スペースベン
 八戸市柏崎1-11-8
 ☎ 43-9876
 FAX 03-5908-9120

※スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールアドレスでご確認下さい。

※スペースベンでは、毎週月曜日午後7時30分から、沼尾美也子さんによりジャズダンスレッスンを開催しています。一度見学にいらして下さい。

FANSでは、脚本を広く募集しています。何か表現したくても踏み出せないあなた、一度「物語」を書いてみませんか？ FANSでは、そんな方の思いを大切に舞台にのせてみたいと思っております。

☎ スペースベンHPアドレス <http://spaceben.com/>
 Eメールアドレス owner@spaceben.com